

NEWS RELEASE

2024年7月16日

日本豆乳協会

SOY2405

日本豆乳協会

豆乳食育活動における高校生約37,000名の 豆乳に対するアンケート集計・分析結果を発表

～2013年から開始した食育活動から見えてきた
豆乳の摂取動向及び摂取意向の実態～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：山崎 孝一 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2013年より、豆乳を通じた食育活動を積極的に展開してきました。その一環として、高校生に対し、良質な植物性たんぱく質摂取の必要性を啓発、豆乳の習慣化をサポートするため、「スポーツ×豆乳キャンペーン」を実施しています。この7年間で、全国32都道府県、のべ106校、61,500本の豆乳を協賛し、豆乳の摂取状況等に関するアンケート調査を実施しました（有効回答数約37,000件）。

文科省で定められたスポーツ強化校をはじめ、インターハイや高校総体、体育祭等の機会に、高校生に豆乳のサンプリングをしています。アンケートは毎年実施しており、定点で観測しています。下記は、これらの集計・分析した結果の概要です。

<アンケート集計・分析結果の概要>

- 豆乳摂取経験がある人（1度でも飲んだことがある人）は、多い（約8割）一方で、豆乳の摂取頻度は多くはない。約7割が「豆乳をほとんど飲まない」、「飲んだことがない」と回答しており、継続的に豆乳を購入していない。
- 高校生の子どもがいる家庭における豆乳普及率は約50%となっている。
- 日頃、スポーツをして、筋肉や体力づくりをしている中で、「豆乳でたんぱく質が摂取できる」という知識があっても、豆乳を継続的に飲んではいない。
- 「スポーツ×豆乳キャンペーン」を通して、豆乳を試飲し、豆乳に含まれる良質なたんぱく質についての知識を得たことで、今後、「積極的に豆乳を飲んでいきたい」と回答する生徒は、増加傾向にある。

なお、豆乳協会では、2013年より実施している「豆乳食育移動教室」においても「スポーツ×豆乳キャンペーン」同様に豆乳の摂取状況を把握するため、アンケートを行ってきました。過去10年間で、約1,300名の高校生に対するアンケートの結果、上記同様

に、高校生及びその家庭における豆乳を購入したことがない生徒は多いものの、実際に試飲することで、豆乳のおいしさや特徴、魅力を知り、後の購入や摂取意向につながっているという結果が出ています。

豆乳協会では、本アンケートの結果で分かる通り、豆乳の購入や摂取につながるよう高校生に対し、豆乳の特徴や有効成分を知らせるとともに、豆乳の試飲の機会を創出する活動を積極的に展開していきます。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に啓発活動を行っています。1979年（昭和54年）9月1日の設立以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓発活動を推進しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と定め、業界全体を巻き込んで豆乳の普及に向けた様々な活動を展開しています。

<本件に関する報道からのお問い合わせ先>

日本豆乳協会広報事務局

(株)VA インターナショナル
田中／岩野

メール：vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017